



補習校だより

平成27年度 第25号

平成27年10月31日発行

マイアミ補習校

校長 實藤 哲夫

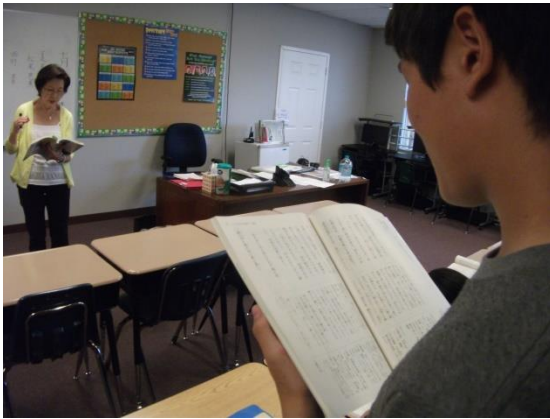
事務（携帯） 305-505-6493

校長（携帯） 917-521-5768

ホームページ miamihoshuko.org

E-mail miamihoshuko@hotmail.co.jp

“蓬萊の玉の枝” そして “夏草”



中学部の子ども達は、国語科学習で古文に取り組んでいます。“蓬萊の玉の枝”の出典は「竹取物語」で、“夏草”は「奥の細道」です。

文部科学省の「中学校学習指導要領解説（平成20年7月改定）」では、改善の基本方針として

【古典の指導については、我が国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視する。】とされています。

また〔言語文化と国語の特質に関する事項〕では、

【月日は百代の過客にして…「音読」】
【古典をはじめとする伝統的な文章や作品を読んだり、書き換えたり、演じたりすることを通して、言語文化を享受し継承・発展させる態度を育成することを重視する。】とされており、日本の伝統的な言語文化を継承していくために、若い世代が古典を学習しそこから未来を切り拓いていくことを期待しています。

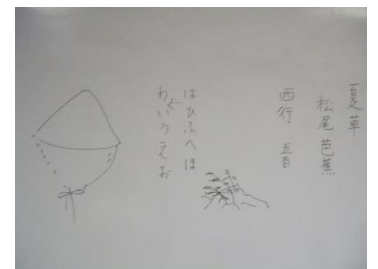
教育基本法が改正され、教育の目標として新たに規定された内容のうち、

【伝統と文化の尊重、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、他国を尊重、国際社会の平和と発展に寄与】

することは、本校の教育目標にある「心豊かでたくましい国際性豊かな子どもを育てる」ためにも重要なことです。

とはいうものの…海外で暮らしている子ども達にとって古文は難解なものだと思います。現代文でも苦労していると思うのに、普段は使わない文語文を学ぶことは、まるで異言語を学ぶように感じるのかもしれませんが。何が書いてあるのか分からないかもしれません。

子ども達が古文を身近なものにするためには、まず、仮名遣いや古文のリズムを味わいながら“音読”をすることが大事になります。音読をさせることで古典の文章に読み慣れさせ、担任はさらに、子ども達の理解を深めさせるために様々な工夫をしています。言語の歴史や、作品の時代的・文化的背景とも関連付けるために、板書に描いた図や絵、また資料により古典の世界観に迫ったり、文章を読み取らせる手段として読み取り表を活用したりします。難解だけれど大事な学習です。中学部諸君、頑張ってください！



【表現特徴、歴史背景を板書で】



【読み取り表を使って】